

【「ごんぎつね」授業記録⑧】

ある月のきれいな晩

T 「月のいいばんでした。ごんは、ぶらぶら遊びに出かけました。」  
みんな、どんなごんがうかぶ？

康治 ぶらぶらだからな、いつもとおなじじゃなくて、ただ歩いている。

T 何もかんがえとらへん気がする。亜未ちゃんは

亜未 月がきれいだから、遊びにいきたい気がする。

T ほう、和寿

和寿 うんとな、ぼうつとぶらぶらさんぽ。

T 勇太は

勇太 わからん

T ちかちゃんは？

千佳……つかれた

T くりを毎日持って行って疲れたから一服って感じ？……ちよつとちがう。

C このとき、どこかへ行こうってあてはあったの？

C なかった・あった

義昌 兵十に栗をもって行ってあげるための栗がなくなったら次のところへ行って

T 栗を取りに行こうということも頭に

義昌 あった。

T ほうかい？

C ない

T 「ぶらぶら」ですから。「ぶらぶら」ってどんなときに使う

和寿 ぼうつとしているの

T なんかひまやなあって時につかうな。

で、みんなにききたいんやけど、このごんうかべててよ、はじめのころのごんとおんなじ？少し違う感じがする？どう？。

宏 ちよつと違う

T あの、「夜でも昼でもでかけて行って」のごんと同じだって気がする人

ちよつと違う感じがするって人（多数） ほう、どちらがう？

寿子 前やったら月のいい晩でもおかまいなしで、いたずらしてたけど、今はいたずらする気もない。

義昌 いたずらが消えた。

T いたずらが消えた。ほう、おもしろいこと言う。誰か言える人ない？

なんかこのごんは、はじめのころのいたずらぎつねと違って

義昌 ほかをもらったでな、いたずらつてことばが消えた。ほんで、ぶらぶら散歩しとる。

T そこ言える人ない？今寿子ちゃんの言いかけたこと。

ああ、まいちゃん

麻衣子 なんか心がやさしいなってきたような

T ほーれ、なんかいいこと言ってるぞおまえら。こういうとき、ぼかーんとしてたらあかんのやで。ほうやってみんなを集めていくのがねうちや。

寿子ちゃんもういっぺん言ってる。

寿子 兵十にくりをもっていくほうが、いたずらより楽しくって、いたずらがばかみたいになっってくる。

T わかるわかるって人

康治 前はいたずらばかりやってたけど、やってるうちにいたずらを忘れてしもた。

T ほう、前はいたずらの毎日から、こんどは兵十にくりをもっていくってやる毎日に変わると、いたずらしてることも、こっちの方がたのしいなってきた。

和寿 いたずらはあきてきた。

T ほう、

宏 ヒントみたいなんやけどな、前な、二三日も雨がふってきたときに自然を観察してたみたいにな、まつ虫の声とか聞いてるからな、ぶらぶらやからな、なんか、遊びにでかけてるみたい。

T 言うてやることわかる？そのときにまつむしの声が耳に入る。

月のきれいさが見える。前のいたずらのときは、寿子ちゃんはそのようなことは頭にもなくって（安裕ただいたずらのことばかり）うん、いたずらのことばかり考えててうさをはらそうみたいなことかんがえてたけど、なんかまいちゃんも言う、やさしいなってきて、……

宏 前にもほういうことあったで、二三日雨が降って

T ああ、……宏が言うてるのわかるかい？ 二三日あなの中で、やっとでてきたとき、心が楽になった、あんなことがあったよな。そういときの気分みたいに、今のごんは、もういたずらよりも、もっといいことがあって、こっちの気分がふわあつてなっている。

そんな気分がぶらぶらでかけていったんだ。

俊之 あんな、ごんがぶらぶら遊びに出かけていったんやったらな、ごんが人間に似てきた。人間になつてきた。

T おっ？どういことやい。もうちよつと行って

俊之 人間の気持ちになつてきた。

和寿 あ、人間にな、気持ちがあわかってな、だんだん人間の心になつてきた。

T 前は？

和寿 いたずらぎつねの心やったけど、それからだんだんな兵十見ててな、人間の心になつてきた。

俊介 えつと、兵十にな、おっかあが死んでからごんがあげてたやん。それでな、兵十のこと見てたらなんとなくわかつてきた。

T なんか、兵十と出会うから、ごんの心もやさしそうになつてきたり、相手の心もわかつてきたり……

康治 うんとな、前とかはな、どうしたら喜んでくれるかわからなかったけど、もう兵十とかの気持ちがあわかったから、あの、何すればいいかわかる。

T 今、自分でしていることが、これがほんとに自分のやりたかったことなんだって、見つけたみたい。

勇太 どう

勇太 わからん

T こういうとるのよ。前はいたずらばかりしとるときは、相手のことなんか思わず、自分のうさはらすことばかりやったやん、ところが今、兵十にもって行ってやったりして、喜ぶ顔や相手のことを思ったりして、人間、やさしさっていいのかな、そういうごんの中にやさしさが見えてきた。

T この話を聞いたとき、どんな気分になつたでしょうね。

義昌 うれしい

宏役 立ってるなとわかった。

智美 よくぞ聞いてくれた。

T どういうこと？

C うれしいんや

T うれしくなつたて気持ちわかる？

麻衣子 何も兵十がしゃべらへんかったら、うれしくないかと思つて悲しくなるけど、そういうふうにしやべっているから、やっぱりうれしかった。

賢治……

有佳子 ごんの顔が笑顔になつた。

俊介 今まで悪いはずらしいやなこと言つてたけど、初めてごんはほめられてるでうれしい。

T この言葉きいたら、なんかほめられてるような気がするんやて。

寿子 うんとな、ごんは、前まで兵十とか悪いうわさばかり聞いてたけど、初めてそこでほめられたことがたまらないほどうれしかった。

T 「だれだかしらんが」この「だれ」はぼくなんやな。

秀和 毎日それを繰り返してたら兵十が許してくれるかもしれないでうれしい。

康治 聞いたときに、どきつとしてな、聞いているうちにうれしいなつてくる。

T ほう、「どきつ」て気持ちわかる？

「あれつ、おれの話しとる」て

祐介 あのな、兵十はごんがもつていってることしらんけどな、でもな、ごんは、兵十にもつていって、元気だしてくれるだけでいいさかいな、

T ほれ、またいいこという。祐介、立つて言つてくれ。

祐介 兵十はごんがもつてきてくれることしらんけどな、ごんは、ただ兵十に元気出してもらいたいだけなん。

T わかつてくれなくても、それだけでうれしいんやな。

ほう、すごいね。

和寿 あんな、もっともっとしたくなる。もっともっといいこととして兵十とも仲良くなりたい。

安裕 ほやけど気付いてくれたらもっとうれしい。

T、そのあとにこんなことが書いてある。

「ごんは、二人のあとをつけていきました。」

なんでつけていくの？

義昌 もっといいこといいこといってくれると思った。

Tもつといいこといってくれるかと思った。おお、すごい。

太志 もつとごんがしてくれたとかいってくれるかもしれない。

亜未 後の話を聞きたい。

T こんだけもおれが役に立っているような気がするんだけど、

宏 それだけ、人間らしくなった。

祐介 ついていくのは、な、くりとかじゃなくて、もつとあげられるものが見つかるかもしれない。

T もつと兵十のためにしてやれるものがあるかもしれないあつて。いいんじゃない。